

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度第 3 回野田市児童福祉審議会
議 題 及 び 議 題 ご と の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	[議題] (1) 野田市こども計画(素案)について(公開)
日 時	令和 6 年 1 1 月 2 6 日(火) 午前 1 0 時 0 0 分から午前 1 1 時 3 0 分まで
場 所	野田市役所高層棟 8 階 大会議室
出 席 委 員 氏 名	会 長 小林 幸男 副会長 森田 邦子 委 員 川鍋 友江、瀧川 雅子、中野 由紀子、渡辺 竜太、 岡田 一芳、小倉 幸雄、古屋 真由美、深井 祐輔、 古橋 和夫、米田 博、川村 岩
欠 席 委 員 氏 名	委 員 篠塚 功、豊田 沙紀、鈴木 直人、荒巻 幸子、 藤本 司、小熊 良、遠藤 恵美子、
事 務 局 氏 名	今村 繁(副市長)、代田明洋(健康子ども部長)、中村正則 (企画財政部次長兼企画調整課長)、池田亜由美(健康子ども部 次長兼子ども家庭総合支援課長)、安藤剛行(生涯学習部参事兼 生涯学習課長)、寺田政司(営繕課長)、川嶋文和(商工労政課 長)、茂木嘉則(みどりと水のまちづくり課長)、海老原純一 (生活支援課長)、岡田勇貴(障がい者支援課長)、武田真弓 (人権・男女共同参画推進課長)、内田一也(児童家庭課長)、 宮下幸治(子ども保育課長)、峯崎光春(保健センター長)、大 久保崇雄(教育総務課長)、加藤純子(興風図書館長)、廣居信 和(学校教育課長)、間々田英示(指導課長)、龍野 淳(学校 教育部主幹兼子ども家庭総合支援課分室長)、山形好人(人事課 長補佐)、西野寛史(情報政策課長補佐)、岡田敦子(市民生活 課長補佐)、原田陽子(防災安全課長補佐)、山崎正浩(児童家 庭課長補佐)、秋鹿弥由紀(保健センター長補佐兼子どもの発達 相談室長)、深町雄也(スポーツ推進課スポーツ推進係長)、松 本英行(児童家庭課子育て支援係長)、岡田尚子(児童家庭課児 童給付係長)

傍 聴 者	1 名
議 事	会議結果（概要）は次のとおりである。
司 会	令和 6 年 11 月 26 日午前 10 時、令和 6 年度第 3 回野田市児童福祉審議会の開会を宣言した。 会議の成立及び公開について報告した。 会議録作成のための録音及び傍聴について了承を得た。 会議資料について説明した。
会 長	議題 1 野田市こども計画(素案)について 事務局からの説明を求める。
児童家庭課長	<事務局説明>
会 長	説明があった内容について、各委員に質疑及び意見を求める。
川 村 委 員	資料 184 ページ、事業番号 162 番の奨学金返還支援事業について、どの程度の利用を見込んでいるのか。また様々な育英会がある中で交通遺児育英会を対象に含めた理由は。
企画調整課長	当初では 10 名分を見込んでいるが、どの程度申請が出てくるのか把握が難しい。見込みを上回る場合には、補正予算での対応も検討していく。奨学金については、日本学生支援機構を利用している方がほとんどだと思うが、交通遺児育英会の奨学金を利用している方も一部いることから対象に加えたものである。
川 村 委 員	資料 113 ページ、事業番号 58 番の育英資金貸与事業について、どの程度の利用を見込んでいるのか。
学校教育課長	償還中の 18 名分に加えて毎年新規で 1 名分を見込んでいる。
渡 辺 委 員	現在整備を進めている新しい中央子ども館のコンセプトを教えてください。
児童家庭課長	保健センターに近いことから、乳幼児とその保護者の利用が中心になると考えている。大型児童センターとはまた違った、小型児童館ならではの家庭的な雰囲気のある、地域に密着した施設であることをアピールしたい。
渡 辺 委 員	医療的ケア児の受入れについて、各市町村で課題になり始めて

子ども保育課長	いると思うが、野田市ではどのように考えているのか。 まずは直営保育所や公立保育所で医療的ケア児の受入れができる体制を整備したいと考えている。既に直営の中根保育所では、常勤の看護師を配置して医療的ケアに対応している。今後もニーズが増えることが想定されることから、民間保育所と連携しながら、医療的ケア児の受入れ体制を整備していきたい。
渡 辺 委 員	資料60ページ、地域子育て支援拠点事業について、野田市は人口と比べて施設数が多いと考えているが、一方で量の見込みは減少傾向となっている。どのように評価しているのか。
児童家庭課長	地域子育て支援拠点の利用者の多くはリピーターであることから、地域の拠点として定着しているものと考えている。地域の子育て拠点として重要な施設であることから、引き続きNPO法人などに委託するかたちで実施していきたい。
渡 辺 委 員	資料66ページ、児童育成支援拠点事業について、令和8年度から開始する事業であるが、現段階で何か教えていただけるようなことがあれば情報として教えていただきたい。
児童家庭課長	青少年や大人への支援については重層的支援体制整備事業があるが、児童育成支援拠点事業はそれより低い年齢のこどもを対象にした事業である。困難な背景を抱えるこどもが安心して過ごせる場を提供するものであり、効果的な事業であることから、令和8年度までに1か所整備することを目標にしている。
渡 辺 委 員	発達が気になるこどもの割合が増えてきているが、児童発達支援センターの拡充について、野田市ではどのように考えているのか。
子どもの発達相談室長	野田市では、あさひ育成園とこだま学園の2か所の児童発達支援センターを設置している。今後、児童発達支援センターの拡充についても検討が必要になってくると思うが、まずは現施設の機能の充実を図りたい。
川 村 委 員	資料29ページ、こどもの生活実態調査について、「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」

指 導 課 長	の合計が小学生では 16.6 パーセント、中学生では 22.4 パーセントと高い数字である。理解度の向上が必要だと思うが、前回の審議会において自己肯定感を高めるための取り組みを実施しているとの回答があったが、こども計画のどの事業が該当するのか。 こども計画には具体的な学力向上のための取り組みは記載していないが、教育委員会ではこどもたちが成功体験を得る機会として保護者や地域の方々に認めていただける場を設けるべきであると考え、今年度から土曜授業では、地域に開かれた行事などを中心に授業を行うよう変更した。授業がわからないという点については、目標を示してその目標に向けてどのように授業を展開していくか、最後にはこどもたちが理解度を確認できる授業づくりを教職員に指導している。
健康子ども部次長	こどもの自己肯定感や基本的人権の尊重など、こどもの幸せに関する部分については、学校や家庭、地域が一体となってこどもの居場所を確保するとともに、地域の方から様々な体験活動を与えてもらうことで、自分の居場所を見つけ、自分の将来の夢を描くことにつながると考えている。こども計画に盛り込んだ事業を一つ一つ丁寧に実施することで、野田市でこどもたちが育まれていくことがこども計画の基本である。
川 村 委 員	資料 184 ページ、事業番号 161 番、結婚支援事業について、前回の審議会でも少子化の原因は婚姻数の激減と未婚化であるとの回答があったが、結婚支援事業は結婚しようと思っていない方に向けた取り組みなのか。
企画調整課長	結婚支援事業の婚活イベントについては、結婚を希望する男女に出会いを提供して結婚への意識を高め、婚姻数の増加及び市への定住を促進することを目的に平成 29 年度から実施している。
健康子ども部次長	少子化問題については、婚活事業だけで解決できるとは考えていない。国全体の課題だと認識しており、国で対応してほしい部分もある。野田市ができる部分については、地域と連携を図りながら実施していきたい。

川 村 委 員	こどもの自己肯定感を高めるためには、やはり勉強ができることではないかと考える。日本には留年制度がないので、授業がわからないまま次の学年に進んでしまう。授業がわからないこどもを対象にした学習支援を検討してほしい。
生涯学習課長	野田市では、将来を担うこどもたちが学校の授業を理解できるよう児童生徒の自主的な学習をサポートし、基礎学力の向上や学習習慣の定着、学習に対する興味関心を高めるために子ども未来教室を開設している。わからない部分はその都度講師が教えるというかたちとなっており、学習塾に行けない方、行きたくない方、家庭ではなかなか学習機会が確保できない方にも利用してほしいと考えている。定期的にテストなども実施しており、理解度を確認しながら、一人一人に合った指導を行っている。
学校教育課長	野田市では、授業の学習をサポートするため、サポートティーチャーを各教室に配置するほか、小中学校の学級担任の事務負担を軽減し教員がこどもと向き合う時間を確保するため、市内の小中学校に学級事務支援員を配置している。
川 村 委 員	学習支援について、具体的な目標値を設定して取り組むべきではないか。
指導課長	目標値の設定については難しい課題がある。例えば国でも全国学力・学習状況調査の結果の公表の仕方について検討していると聞いている。野田市でも一定の順位を目標に掲げていたが、数値ばかりが一人歩きしてしまう状況であった。授業がわからないこどもの数を少しでも減らせるよう引き続き努力していきたい。
川 村 委 員	松戸市ではスクールソーシャルワーカーが学校に常駐しており、教師と連携を図りながら、こどもとその家庭の支援を行っている。毎日こどもと接している教師は、こどもの変化に気づきやすく、スクールソーシャルワーカーが常駐していることですぐに連携ができ、救いの手を差し伸べることができる。スクールソーシャルワーカーと連携できることで、教師はより教師の役割に時間を割くことができる。松戸市で採用しているスクールソーシャ

健康子ども部長	ルワーカー制度を計画期間内に確立させることを盛り込んでいただきたい。 野田市では、県職員のスクールソーシャルワーカーを配置している。加えて、教育委員会指導課に子ども家庭総合支援課の分室を設置し、社会福祉士などの資格を有した職員を配置している。スクールソーシャルワークの充実について、計画に盛り込むことで検討したい。
川 村 委 員	資料 113 ページ、事業番号 58 番の育英資金貸与事業について、現在の月額 1 万 5 千円は、今から半世紀前の日本育英会が貸与した一般奨学金と同額である。大学の授業料は、この半世紀で 5 倍となっており、日本育英会の後継組織である日本学生支援機構の奨学金もかなり増額されていることから、奨学金の金額を増額すべきではないか。償還期間 5 年以内というのも厳しいので、10 年に引き延ばした方が良いのではないか。
副 市 長	確かに償還期間 5 年以内というのは物価高騰が続いている中で厳しいと思う。他団体の状況を把握したい。利用件数が少ないことについても、金額が低いからなのか、それとも返済期間が短いからなのか、よく検討させてほしい。パブリック・コメント手続の日程上、修正案については会長一任とさせていただきたい。パブリック・コメント手続の結果を踏まえ、次回の審議会で議論していただきたい。
古 橋 委 員	資料 133 ページ、事業番号 85 番のこども家庭センターの整備について、事業内容でポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチといった専門用語が使われている。市民にわかりやすい表現にしてほしい。
健康子ども部長	計画全体を通じてわかりやすい表現となるよう見直しを行う。
会 長	ほかに質疑、意見があるか伺う。 ＜質疑・意見無し＞
会 長	「その他」として、各委員に質疑及び意見を求める。 質疑・意見がないので、以上をもって全て議題が終了した。

会	長	議事終了につき、議長の任を解く。 午前 11 時 30 分、閉会を宣言した。
---	---	--